

第4回 キャビネット会議 委員長報告書

委員会名 Y E 委 員 会
委員長名 L 鷹 箸 貞 夫

報 告 事 項

1. 定例委員会の開催

2006年8月より2007年5月まで10回開催
正副委員長会議を10回開催
青少年英語スピーチコンテスト小委員会を6回開催

2. 今までの開催行事

- ①スプリングキャンプ開催 3月29日～4月1日（3泊4日）
- ②春期来日生 日光見学 4月 9日
- ③春期来日生 ディズニーランド見学 （4月11日）
- ④夏期派遣生オリエンテーション 9回開催 於：キャビネット事務局
（2月17日、2月24日、3月10日、3月24日、4月7日、4月14日、
5月12日、5月19日、6月9日）

3. 夏期における行事予定

- ①夏期派遣生 壮行会 於：京王プラザホテル 6月23日（土）
- ②夏期派遣生ホスト家庭オリエンテーション 6月30日（土）
於：キャビネット事務局
- ③夏期来日生 ウェルカム・パーティ 7月20（金） 於：南国酒家
- ④330複合地区主催によるサマーキャンプ 7月22～28日（6泊7日）
於：川崎国際交流センターホテル、山梨県日本航空学園ファイアー寮
- ⑤夏期来日生 ディズニーランド見学 8月1日（水）

4. 活動状況

- ①冬期活動報告書の配布
4月27日 各クラブに配布致しました
- ②春期活動報告書の配布
5月下旬 各クラブに配布の予定
- ③夏期の活動について
 - （イ）派遣生の状況 11名（高校生4名、大学生7名）
MD4（アメリカ）2名、デンマーク1名、ニュージーランド1名
フィンランド2名、ドイツ3名、トルコ1名、イタリア1名
 - （ロ）来日生の状況 8名
MD4（アメリカ）2名、ドイツ1名、オーストリア1名、台湾1名
イタリア1名、エストニア1名、イスラエル1名

5. 協賛金の状況

5月20日現在 ￥2,854,500 円 （ご協力お願い致します）

現在までの活動は、冬期、春期ホストファミリーの皆様と各クラブメンバーのご協力を得て、大変有意義な活動を続けさせていただいております。感謝申し上げます。

尚夏期来日生のホスト家庭に一層のご協力をお願い申し上げます。

第4回キャビネット会議審議事項

委員会名 環境保全委員会

委員長名 L. 風間 昭

審議事項

2003 ～ 2004年度 330-A地区 環境問題委員会

剰余金返還請求の件

(説明) 03' ～ 04' 年度 中島 洋吉ガバナ一期、上記委員会 剰余金
¥524,496 は、日下委員長より 04' ～ 05' 環境問題委員会委員長
(L. 風間 昭)として引継ぎましたが(資料添付)、誤処理のまま、
いまだ今日までキャビネット会計に入金されておらず、早急にキャビネット
会計の適切な預金口座に返金されるべきものと考えます。

(注) 5月28日 (月) までに330-A地区キャビネット事務局宛 FAXにてご提出ください。

FAX (03-5330-3370)

第4回 キャビネット会議提出案件

役職名 環境保全委員会委員長

第 R・第 Z LC

L 名 風間 昭

案件 1. 委員会特別会計設置の件

(説明) 第53回年次大会にて、環境保全委員会の常設、一部委員の留任、
プログラム延長が決議、承認されました。

については、委員会特別会計口座の設置 及び 今期環境保全委員会
3月6日実施の環境セミナー、リーダー養成講座の余剰金を設置された
特別会計口座に繰入れることの承認を承りたい。

(注) 5月28日 (月) までに330-A地区キャビネット事務局宛 FAXにてご提出ください。

FAX (03-5330-3370)

2007年3月6日環境リーダー養成講座 収支報告書

予 算	収 支	対 比
収入の部		
登録料 3,000円×100名 300,000	133名 399,000	+99,000
支出の部		
1. 会場費 44,080	44,080	0
2. 資料代		
①教本 1,008×100名分 108,000	142,350	+34,350
②印刷代 10,000	0	-10,000
3. ドリンク		
150円×110本 16,500	15,099	-1,401
4. 修了証書・認定カード 50,000	終了証台紙 135枚 14,175 ラミネートフィルム 760 認定証用紙 1,155	-33,910
5. 講師費用 50,000		-9,500
①謝礼	30,000	
②手土産・茶菓代	10,500	
6. 看板等 10,000	0	-10,000
7. 送料・その他 11,420	0	-11,420
小 計 300,000	258,119	41,881 40,881
残 高 0	140,881	
合 計 300,000	399,000	99,000

以上の通り報告いたします。

2007年4月24日

2006-2007 環境保全委員会 委員長 風間 昭

第4回キャビネット会議委員長報告書（又は審議事項）

委員会名 環境保全委員会

委員長名 L. 風間 昭

報告事項(又は審議事項)

2月27日 第8回委員会 キャビネット事務局 16:00 ～ 18:00

①アワードの説明 ②アンケートの結果報告

③リーダー養成講座 当日の段取り打合せ ④認定証について検討

3月6日 環境セミナーのリーダー養成講座実施 於:憲政会館 12:00 ～ 17:00 133名参加

①リーダーシップ養成講座 及び 当日アンケートの報告

②環境保全に関する事前アンケートの報告・整理

③ガバナーへの答申書 及び 地区年次大会 複合年次大会の提出案件の確認

④地区アワード・複合アワードの報告

3月30日 修了証書・認定証 各クラブへ送付

4月21日 年次大会議案 委員会提出 全案決議承認

4月24日 第10回委員会キャビネット事務局 14:00 ～ 18:00

①リーダー養成講座 (イ)収支報告 (ロ)アンケートまとめ

②環境保全アンケートのまとめ

③今後の委員会としての検討事項

④年次大会報告

5月9日 複合環境保全・社会福祉委員会 於:複合事務局 14:00 ～ 15:00

5月19日 複合年次大会 出席

5月25日 第11回委員会 キャビネット事務局 14:00 ～ 16:00

①3年目プログラム実施検討 次期引継案作成

②収支報告 及び 特別会計口座設置について

③次期委員会の件 (イ)一部委員留任 (ロ)次期へ提案

(注) 5月28日 (月) までに330-A地区キャビネット事務局宛 FAXにてご提出ください。

FAX (03-5330-3370)

330-A 地区 環境保全委員会報告

環境保全委員会委員長
L. 風間 昭

第 51 回年次大会で承認された「330-A 地区 環境憲章」 及び 330-A 地区 環境問題アクティビティプログラム 3 ヶ年計画について 2007 年 4 月 21 日（土）に開催された第 53 回年次大会分科会 及び 代議員総会に於いて、下記の 3 点が決議・承認された。

- ①「環境憲章」の一部訂正
- ②「3 ヶ年計画」の一部訂正と「5 ヶ年計画」に延長
- ③委員会の常設化と委員の一部留任

以上、活動の継続性の重要性から満場一致で可決・承認された。

なお、330-A 地区 第 53 回年次大会を前に 2006 年 12 月～2007 年 2 月にかけて実施されたアンケート集計の一部とまとめは別紙の通り、330-A 地区の中でも温度差が著しく、又 環境についての認識度にも幅があると共に低いことがわかった。

今後、常設の環境保全委員会として委員の一部留任にともない、適切な情報と専門的なメンバーのリーダーの養成をより推進して、各クラブに随時広報できる体制、システムをつくることが急務であるとする。

◎ 「330-A 地区 環境憲章」

『ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区は、われわれの子孫への未来を継続するため、ライオンズの奉仕の精神に則り、各クラブメンバーが手をつなぎ、地球環境保全活動を推進する。』

◎ 「330-A 地区 環境問題プログラム」 3 年目 実施要項一部変更

☆ 3 年目 (2007 / 7 ～ 2008 / 6)

①環境セミナーの実施

②環境リーダー養成講座の実施

③環境リーダー養成中級講座（仮称）の実施

③荒川クリーン作戦活動

④多摩川クリーン作戦の準備検討

⑤植樹活動の実施

⑥環境憲章の徹底

⑦環境活動家の把握とその準備の検討

⑧クラブ・ゾーン等の要望に応えられる環境講師団の紹介体制の準備

⑨その他 その期の環境委員会決定の実施

[説明]

現在、地球環境は地球温暖化、エネルギー問題、資源、廃棄物対策などすでに様々な問題に直面しており、今後、持続可能な社会を築くためには地球環境との相互バランスが不可欠であり、すべての生命と環境全体がしっかりと結びついていく必要がある。

例えば、木を植える前に木を切ることを抑えるなど、環境行動の意味を考え一人で行動するのではなく皆で理解し行動する。

戦争、貧富格差、飢餓、差別、教育、自然破壊、人口問題など、人類の未来を考慮することはあらゆる現象に配慮することに他ならず、世界の人々の間における相互理解の精神を培い、先進国、日本、東京 330-A 地区に在することの意味を自覚し、真摯に環境問題に取りくまなくてはならない。

社会的貢献と環境の向上とを促進するために、実行し、且つ、善良な市民として、地球の環境意識向上および公德心の向上に積極的に関心を示し、国際的な環境保全を維持するためにわれわれの力をあわせ、環境と社会の両立を実現していかななくてはならない。

奉仕の心を持つすべてのライオンが、個人の経済的報酬なしに環境保全の社会奉仕を促進するために、ライオンズクラブ 330-A 地区の機構を用いることを決意し、これらの目的を達成するために、われわれの努力を結集することとした。

ライオンズクラブにおける環境保全の意識は低い

－アンケートのまとめ－

330-A地区環境保全委員会

今、地球は環境保全を考え、対策を講じないと30年以内に滅亡するといわれ、実際に最近の人類の経済活動によってもたらされる海面上昇、気候温暖化など、環境異常などが身近に体感され始めている。

そこで、330-A地区環境保全委員会が2006年12月～2007年1月にかけて、改めて地区内各クラブの環境保全についての意識を探るべく実施した330-A地区内のライオンズクラブに対するアンケートの集計結果をまとめた結果が次の通りとなった。

詳細な集計結果は別紙添付した通りなので、概況を考察してみた。

1. 環境保全についての意識は極めて低い

- a アンケートに回答をよせたクラブは全体の32%しかなかった。

330-A地区207クラブのうち67クラブしか回答がなく、そして、6～10Rでは33%しか回答がなかったのに対して、16～20Rでは66%が回答をよせた。都市部中心ほど環境保全意識は薄い。

- b 環境保全に対する知識が偏っている。

意識が地球温暖化防止、森林保存、水質浄化等に集中（回答率50%以上）し、それらと同様に重要な課題である生物多様性問題、貧困格差解消等（回答率30%以下）については環境保全問題とは考えていない現実がある。

2. 環境保全に対するアクティビティの実施率は低い。

毎年実施しているクラブは28クラブで回答数の42%になる。環境保全関係のアクティビティをしていない理由は予算がない、人手がない、方法がわからない、他にやりたいアクティビティがあるなどで35%にもなる。

3. 環境保全委員会の実施してきたことに対する認知度が低い。

- a ライオンズクラブにおける単年度制の弊害が影響している。

環境保全委員会が毎年実施しているリーダー養成講座を知らないクラブ（24%）、環
リーダーの活動内容を知らないクラブ（73%）、環境リーダーがいないクラブ（76%）
といった数値はライオンズクラブにおける単年度制に影響されていると考えられる。

- b 環境保全に対する危機感が乏しい。

環境問題をクラブ内で討議したことがないクラブが40%もある。それでも植樹活動が
CO₂削減に貢献していることを知らないクラブは4%しかなかった。

- c 河川浄化運動は都市部では難しい。

河川浄化について何らかの活動をしていないクラブは82%もあったが、これは河川が
地域社会の範囲内にないことが大きな原因であるようだ。

4. 回答より見たマイナス点

- a 永続的な環境対策が維持できていない。
植樹（桜）や河川清掃が単年度で終わる傾向があるばかりでなく、一度植樹されたものの維持管理が難しい。（文章回答より）
- b ライオンズクラブの衰退が環境問題の解決を阻止している。
文章回答に見られるもので、メンバーの減少による労力の不足、事業費予算の不足、継続実施ができない、継続実施が不可能、地域社会との連携不足など会員減少傾向による障害が多い。
- c 地区委員会にアクティビティの方法を頼る傾向が見られる。
実施の具体例が知りたい、方法を教えてほしい、他クラブの資料がほしい、植樹のできる場所を知りたい等の要望が見られる。

5. アンケートから地区委員会の在り方を考え直さねばならない。

- a 現状では委員会活動が結果を生んでいない。
アンケートの状況から見て、環境保全問題はどのような形をとったにせよ、単年度毎の施策実施では、実効性に欠ける。少なくとも樹木が一年で成長しきれるわけではないので、それに合わせると委員会活動は最低でも5年、本来なら半永久的に永続性を持った活動をしないと、地域社会から共感を得られるライオンズクラブの活動にはならない。
- b メンバーの環境保全に対する意識が極めて薄い。
環境問題が人類の将来を握っていることを考えて、最低でもメンバー全員、さらにはライオンズクラブが芯になって広く社会にその考えを敷衍するぐらいの取り組みが必要である。

6. 結論

環境保全の重要性は、地球滅亡、人類滅亡につながっていることをもっと地域社会にPRしなければならない。それにはライオンズクラブ内における認識を改める必要がある。そして、そのためにキャビネットの委員会活動を中心にまず各単位クラブを啓蒙し、歴代ガバナーの方針の一つに取り入れると同時に委員会も長期計画を立てて実行しなければならない。

今後のライオンズクラブ活動の再重点・長期目標とすることを提案する。

以上。

環境保全についてのアンケートの集計 (2007. 3)

アンケート回収件数

全207クラブのうち

回答クラブ数

1～5 R	6～10 R	11～15 R	16～20 R	総計
19 C	12 C	14 C	22 C	67 C
(28%)	(18%)	(21%)	(33%)	(100%)
19/53 (36%)	18/55 (33%)	21/49 (43%)	33/50 (66%)	67/207 (32%)

A. 環境保全についてお聞きします。

(1) 環境保全という言葉にあてはまると考えられることを、次の中からいくつでも結構ですからチェックしてください。

	チェック数	
☐ 地球温暖化防止	56	84%
☐ 森林破壊防止	54	81%
☐ 河川等の水質浄化	53	79%
☐ 植樹活動	52	78%
☐ 樹木の保存・保護	52	78%
☐ オゾン層破壊防止	44	66%
☐ 廃棄物対策	42	63%
☐ 海洋汚染防止	42	63%
☐ ごみ(ポイ)捨て禁止運動	38	57%
☐ 異常気象対策	38	57%
☐ 土壌汚染防止	38	57%
☐ 道路・広場等の清掃	36	54%
☐ 酸性雨問題	35	52%
☐ 砂漠化防止	35	52%
☐ エネルギー対策	32	48%
☐ 環境ホルモン対策	24	36%
☐ 飲料水と食料問題	22	33%
☐ 禁煙推進運動	18	27%
☐ 生物多様性問題	15	22%
☐ 貧困格差解消	4	6%
☐ その他にありましたら具体的にお書きください。		

第4回キャビネット会議 委員長報告書（又は審議事項）

委員会名 献血・エイズ委員会

委員長 L 吉田 實

報告事項（又は審議事項）

1. 献血・エイズセミナーの開催

さる4月11日(水)日本赤十字社東京血液センターに於いて、日本エイズ学会会長で、ご自身NPO法人 東京ふれいす代表を務める池上 千寿子氏を講師に標題のセミナーを開催した。当日の参加者はライオンズメンバーが72名、日赤の社員有志が30数名あり、盛況裡の中開催された。内容は長年エイズ問題に係わって来られた氏の平易で解かり易い講演で、種々その問題点をも提示され、今後のライオンズクラブとしての係わり方としてのヒントを得たのではと評価しております。

尚、当日メンバー各位より頂いた登録料は氏のNPO 法人の活動資金として、ドネーションし、必要経費を控除した若干の剰余金は、キャビネット本会計へ戻し入れ致しました。

以上

第4回キャビネット会議委員長報告書

委員会名 献眼・献腎・骨髄移植推進委員会

委員長名 L矢部 正二

報 告 事 項

①当委員会が年間計画をしていました【骨髄移植ドナー説明員認定講座】を実施いたしました。財団法人骨髄移植推進財団のご協力を頂き開催会場・講師・講座資料等のご提供で開催いたしました。ご参加頂きました会員は、43名。330-A地区では、献血奉仕活動と同時に骨髄移植ドナー登録が進められています。詳しい説明をするには認定説明員が必要であります。受講された各位の今後の奉仕活動でご活躍をお願い致します。

開催日時： 2007年4月16日(月) 14:00～17:00

開催場所： 骨髄移植推進財団 会議室

②【骨髄バンクに関する協力をお願いについて】

骨髄移植推進財団より森本ガバナーに協力要請があり、2007年5月11日に330-A地区207全クラブに署名活動文を送らせて頂きました。

この活動は、患者さんが骨髄バンクに患者登録した場合にドナー候補者の検査費用や連絡調整費用、骨髄移植費用など自己負担額が大きく、又医療保険が十分適用されないためこのことが治療法として骨髄移植の選択する際の障害となっています。これらの患者さんの高額な負担を軽減するために医療保険の適用範囲の拡大のために署名活動を行っていますのでご協力をお願い申し上げます。

③【愛の検眼50周年、献眼推進特別活動】説明会の開催

財団法人日本アイバンク協会より森山ガバナーに参加要請が有りましたので当委員会では、3名の委員が参加させて頂きました。当日は、薬物乱用防止大会があります。

開催日時：2007年6月8日(金)15:00～16:30

開催場所：九段会館 孔雀の間

第4回キャビネット会議委員長報告書(又は審議事項)

委員会名 国際協調委員会

日暮 芳春

委員長名

報告事項(又は審議事項)

先般、準地区内各クラブに対し、海外の LC との友好関係及び姉妹提携を希望されますかとのアンケート調査をお願いしましたところ、79 クラブより回答を頂き、内 8 クラブより希望するとのことでした。又、国内の LC との姉妹友好関係については、12 クラブより望むとの答えを頂き、当委員会としても何らかの対応をしなければと、去る 4 月 24 日キャビネット事務局に於いて回答を頂いたクラブの方々と意見交換を致し、その内容を集約致しますと、

(1) 海外の LC と友好提携関係を望みたいが相手国を見つげ出すことは現実に難しい。

(2) キャビネットが友好提携の橋渡しの窓口になる委員会の設置を明記し、次期がパナー諮問事項の中の一つに加えて頂きたいとの要望があった。

(3) 次期、当該委員会の中に、現在、当委員会で海外の LC と多くのパイプを持った有能な委員もおりますので、是非、今期の委員一、二名を参加させて頂ければ委員会活動もスムーズに、効果的に対応処理できると思いますのでご検討の程願います。

以上来期への申し送り事項として取り入れて頂きたく、ここにご報告申し上げます。

第4回キャビネット会議委員長報告書(又は審議事項)

委員会名 C S F II 特別委員会

委員長名 L 飯田 善彦

報告事項(又は審議事項)

1. 330-A地区の実情

日本のライオンズクラブ8複合・準地区数は33地区ございます。私ども330-A地区での一人当たりの献金額は21,123円で、準地区別順位は24位です。330-B地区22位、330-C地区19位でございます。

地区別で一番多かったのが、334-A地区(愛知)で64,976円、目標達成率の134,8%であります。

因みに、330-A地区のC S F II達成率は2年間で43,8%でございます。次年度、56%を課せられることとなります。

C S F II(第2次視力ファースト)は、ライオンズクラブ国際協会が総力を挙げて取組んでおります、国際プログラムでございます。皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

当委員会では、C S F IIの効率を高めるため、M J F 1,000ドル献金の推進をいたしております。お蔭様でA地区では442名の皆様のご協力を賜っております。ご協力皆様方に深く感謝申し上げます。

2. C S F II 特別委員会について

「C S F II 特別委員会」は、今期スタートいたしました。発足当初、様々なご意見がございました。グループ・コーディネーター、ゾーン・コーディネーターとの兼ね合い等々でございます。一部、混乱と誤解がございましたこと深謝いたします。

C S F II 特別委員会(リジョン・コーディネーター)は、グループ・コーディネーター(リジョン・チェアパーソン)の次に位置するポジションで、グループ・コーディネーターをサポートすることでC S F II 献金の実績を向上させようとするのが趣旨でございます。

今期、当委員会、副委員長・委員各位のご協力により、C S F II 推進に貢献することが出来たと思っております。例えば、C S F II 街頭募金活動を始め、各種チャリティー活動での潤滑油的役割でございます。残されました日数、C S F II のP R と実践を引き続き推進して参りたいと思っております。

以 上

(注) 5月28日(月)までに 330-A地区キャビネット事務局宛 FAXにてご提出下さい。

FAX (03-5330-3370)